

未来を生きる子どもたちへのメッセージ ③⑨

『何でもノート』と『何でも研究』について

私が課した宿題の中でもっとも自慢できるものは『何でもノート』と『何でも研究』でした。宿題の内容は、名前の通り、子どもたちが学習したいと思ったことをとことん調べる学習でした。さすがに一週間の半分は、漢字・計算ドリルの練習を課しましたが、残りの宿題は自分の好きな事を調べてもらいました。何を調べたらよいかわからない子のため、『何でもノート』の例を示しました。「社会…新聞の切り抜きと感想 近くにある記念碑のスケッチ 校区の昔話 地名の由来 校区のお寺・神社 偉人の話」「理科…植物採集 星の観察 昆虫 好きな動物 簡単な実験をしてみよう」「国語…新聞の記事の要約 読書感想文 詩歌の創作 漢字の成り立ち 四字熟語 ことわざと格言」「家庭科 好きな料理を作ろう」「図工…街角スケッチ 自由工作」「体育…好きな運動にチャレンジ」こんな例を参考に様々な『何でもノート』ができました。一番思い出に残っているのは「蜂須賀蓮華寺の石仏」の研究でビー紙五枚にびっしりと石仏が描かれ、難しい漢字を見様見真似で写してきました。二人の小学四年生の男の子の研究に舌を巻きました。このノートの発展形として夏休みに『何でも研究』をしました。蛙の成長記録を綴ってくれた子は最後に蛙の詩をいっぱい創ってくれました。サッカー少年はサッカークラブの練習記録を書きました。「サッカーの選手になる」という夢をもつことができました。点検する私も毎日ワクワクする宿題でした。最近「深い学び」とか「主体的な学び」という言葉が使われますが、この『何でもノート』の宿題は主体的で深い学びだったのでないかと思うのです。

そういえば私の好きな作文の題は「近ごろ変わったこと」でした。自分が目で見たまわりの様子の変化、街でも動植物の発見でもよかったのです。目ではみえないけれど心で見ることが出来る変化、自分自身の成長や悩み、友達の変化について一ヶ月に一回、生活文を書きました。テーマを決め、一ヶ月に一度程度少し長めに書くことが、文章が上手くなるコツのように思われました。

作文を書くとき、「言葉」と「言葉」、「文」と「文」をどのようにつなぐかということが問題となります。全体から言葉や文を見直すことが必要となります。その効果的な手法として「マインドマップ」があります。『勉強が楽しくなるノート術 トニー・プサン』はマインドマップを利用した学習法の本で、作文を書くときの参考となります。一度手にとってください。この手法については是非関心をもってくださいね。

令和5年6月8日

津島市教育委員会
教育長 浅井厚視